

第2部 種別ごとに見る事故

ここでは、日常生活における事故を「ころぶ」「落ちる」「ぶつかる」「ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む（ものがつまる等）」「切る・刺さる」「はさむ・はさまれる」「やけど」「かまれる・刺される」「おぼれる」の種別ごとに取り上げています。最も多いのは「ころぶ」事故で、全体（※その他、不明を除く）の69.5%となっています（図2-1）。

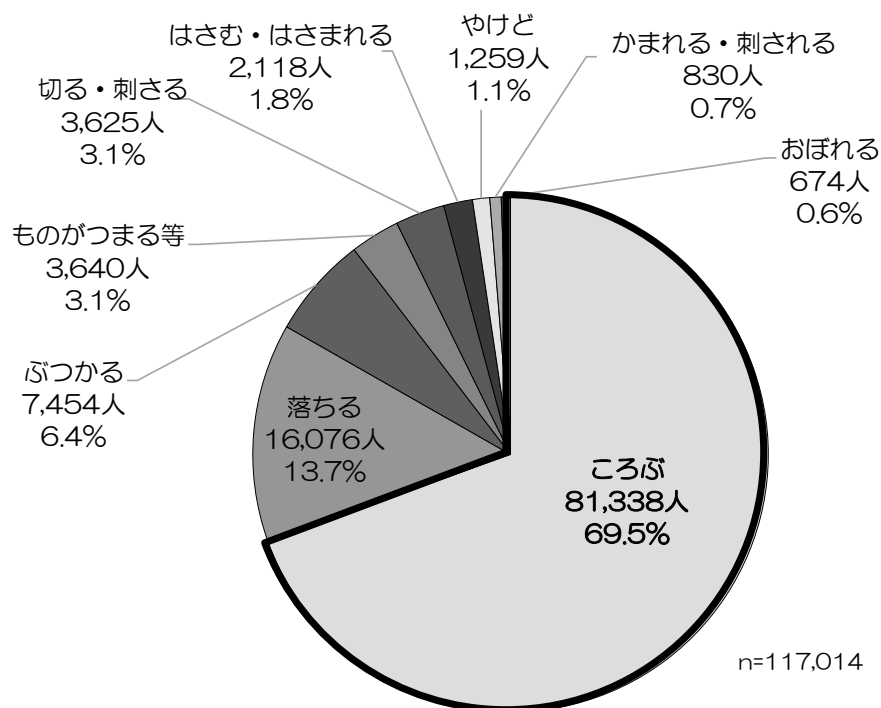


図2-1 事故の種類別構成割合（その他、不明を除く）

※熱中症は事故種別「その他」に該当します。（ピックアップ2 P.11）

種別ごとにみると、事故は年代によって特徴があります。乳幼児は他の年代に比べ、ものがつまったり、ものを誤って飲み込む事故の割合が多く、またやけどの割合も多くなっています。10代ではぶつかる事故の割合が多くなっています。また、高齢になるにつれて「ころび」事故の割合が増えています（図2-2、図2-3）。

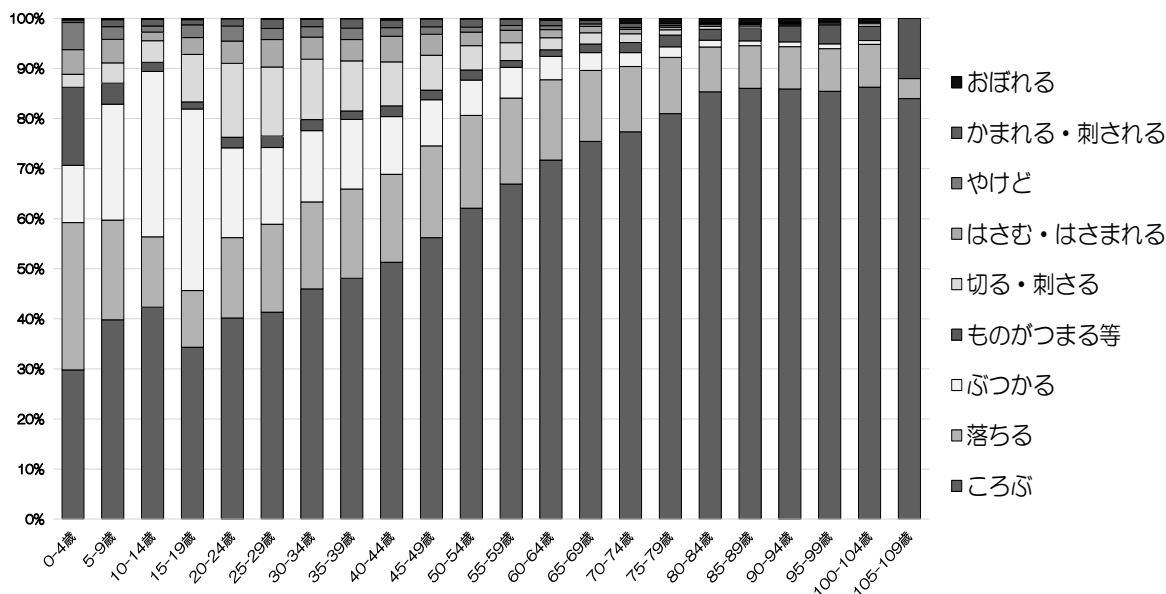


図2-2 年齢別の事故の種類別構成割合(その他、不明を除く)

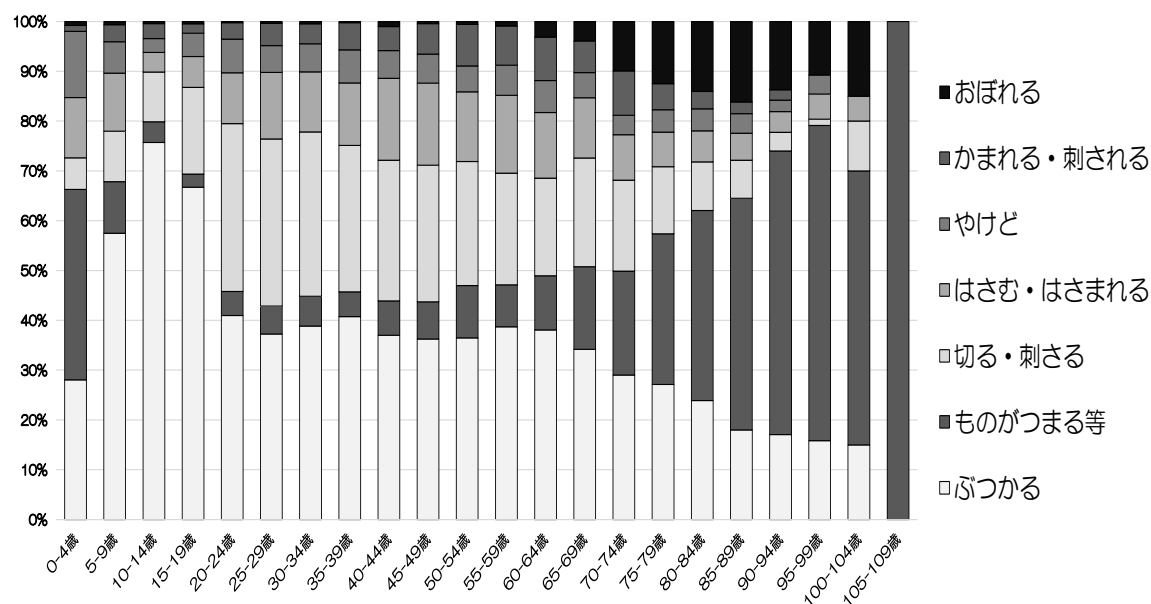


図2-3 年齢別の事故の種類別構成割合(ころび、落ちる、その他、不明を除く)

1 ころぶ

(1) 年別搬送人員

「ころぶ」事故は日常生活における事故の中で最も多く、平成30年中は 81,338人が救急搬送されています（図2-4）。

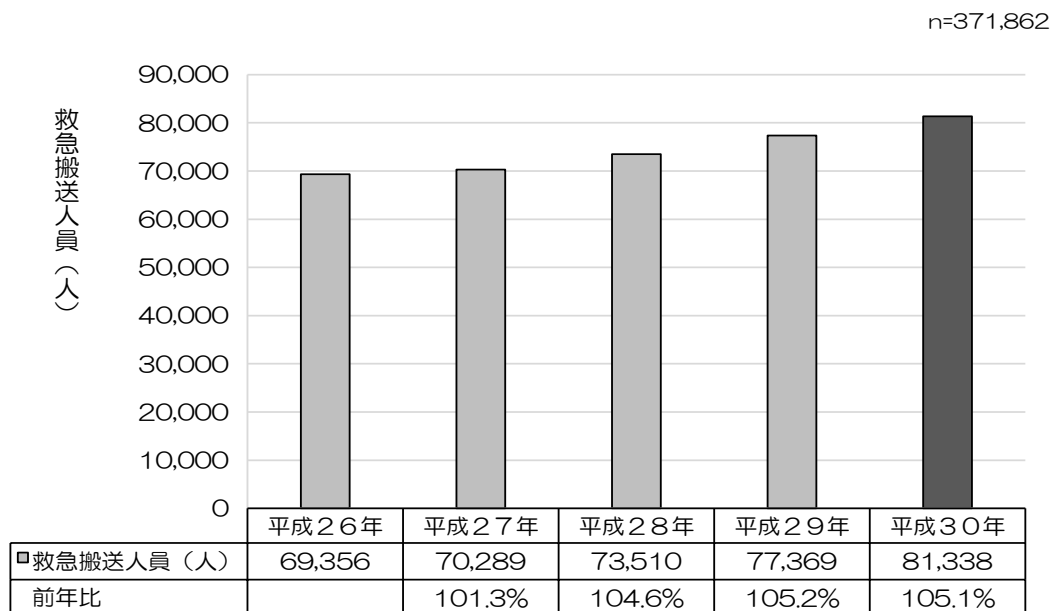


図2-4 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、65歳以上の高齢者が多く救急搬送されています（図2-5）。

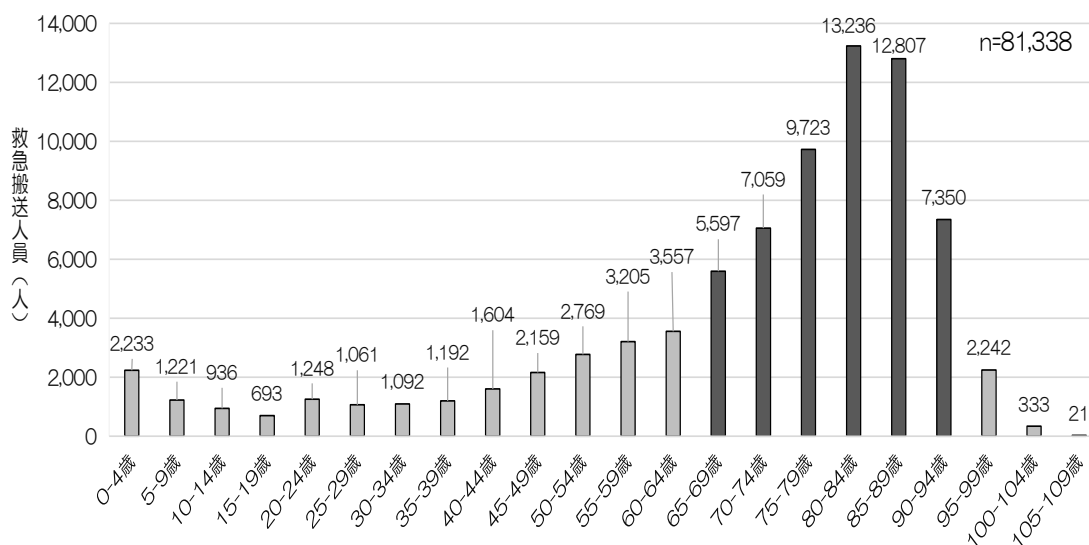


図2-5 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く、次いで道路・交通施設となっています（図 2-6）。

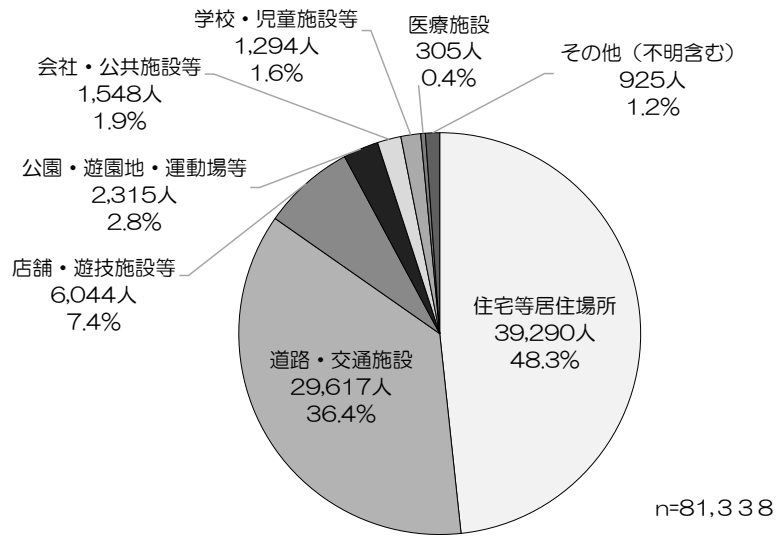


図 2-6 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

「ころぶ」事故では、3割を超える人が中等症以上と診断されています（図 2-7）。

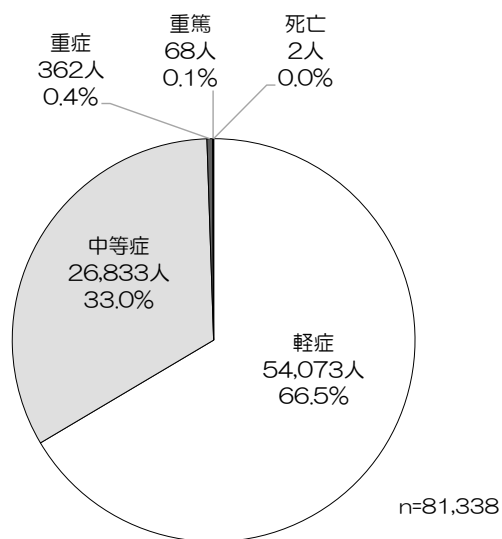


図 2-7 初診時程度別救急搬送人員

【事例 ころぶ】

自宅玄関先で段差につまづいて転倒し、頭部を受傷した。（80代 重症）

2 落ちる

(1) 年別搬送人員

階段や脚立などから「落ちる」事故で、平成30年中に16,076人が救急搬送されています(図2-8)。

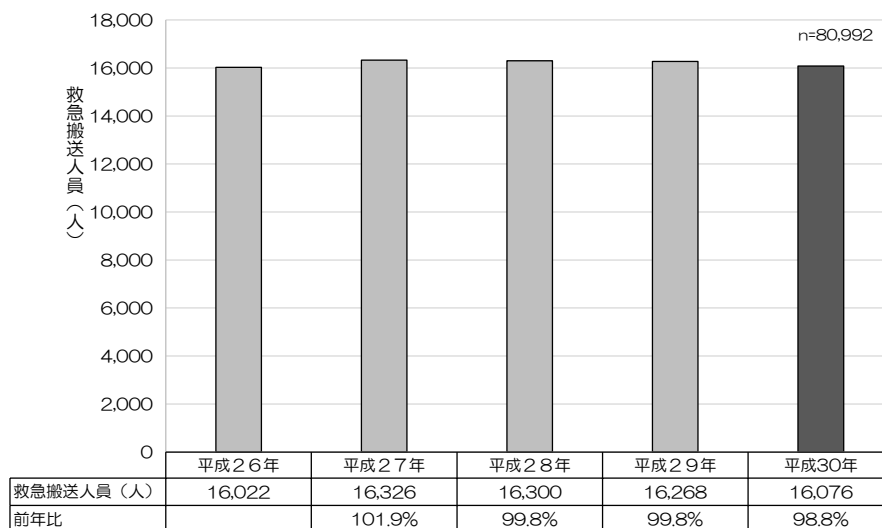


図2-8 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層(5歳単位)別では、0歳から4歳が最も多く、2,202人が救急搬送されています(図2-9)。

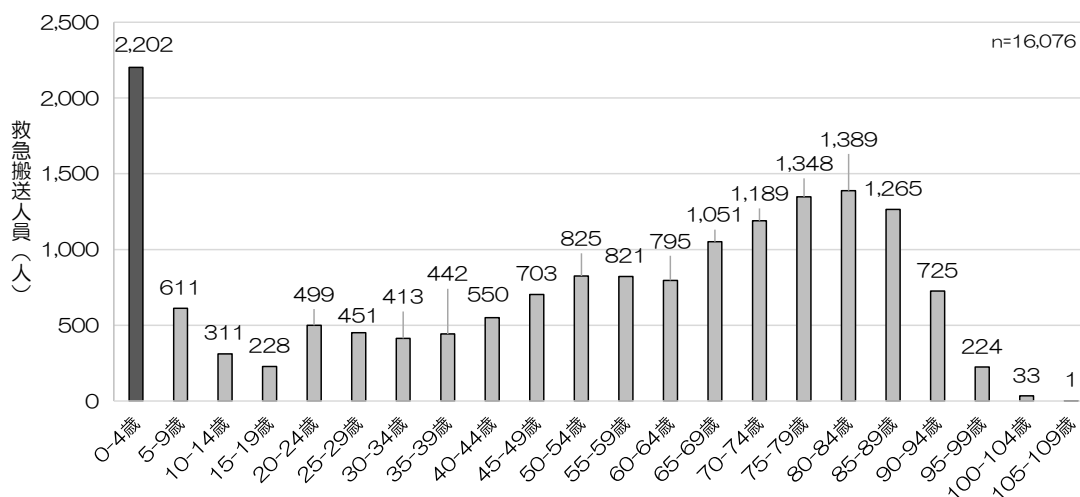


図2-9 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く半数を超えています。次いで、道路・交通施設、店舗・遊技施設等で多く発生しています（図 2-10）。

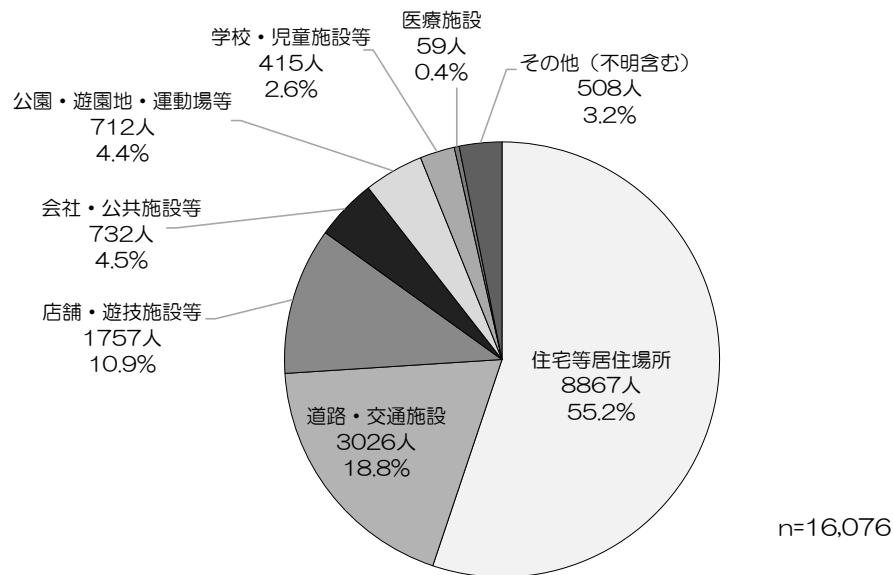


図 2-10 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

「落ちる」事故では、3割を超える人が中等症以上と診断されています（図 2-11）。

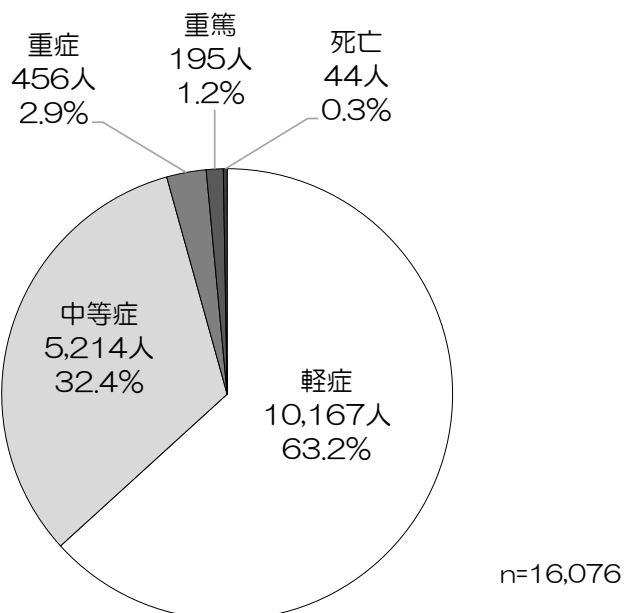


図 2-11 初診時程度別救急搬送人員

【事例 落ちる】

自宅3階のバルコニーで、エアコン室外機に上って遊んでいたところ、誤ってバルコニーの手すりを乗り越えて墜落した。（5歳 中等症）

3 ぶつかる

(1) 年別搬送人員

飛んできたボールに「ぶつかる」事故や、走っていて人やものに「ぶつかる」事故で、平成30年中に7,454人が救急搬送されています(図2-12)。

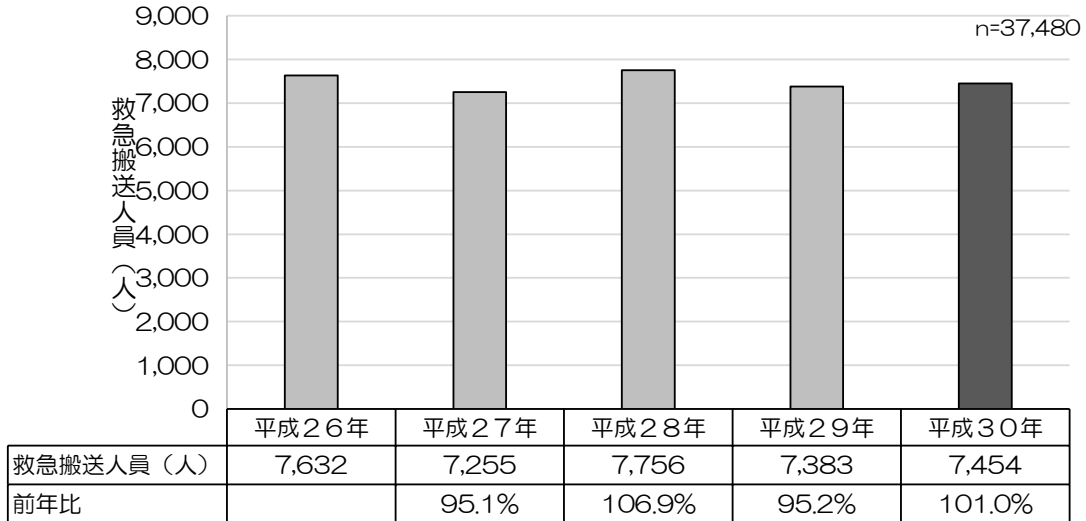


図2-12 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

最も多いのは、0歳から4歳となっており、10歳から19歳の10代も多く救急搬送されています。「ぶつかる」事故は、加齢とともに減少しています(図2-13)。

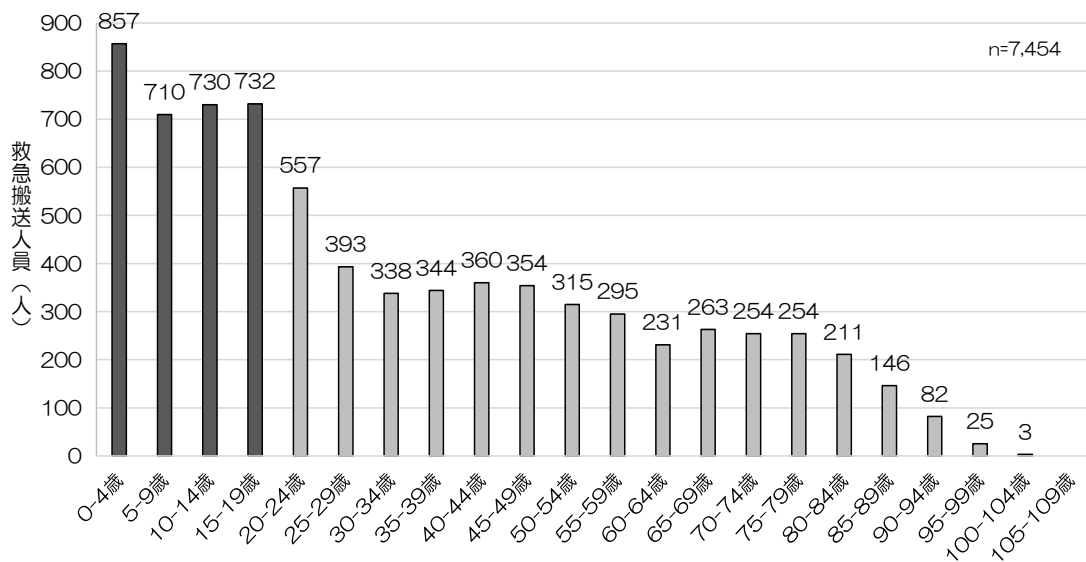


図2-13 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く、次いで、公園・遊園地・運動場等での事故が多く発生しています（図 2-14）。

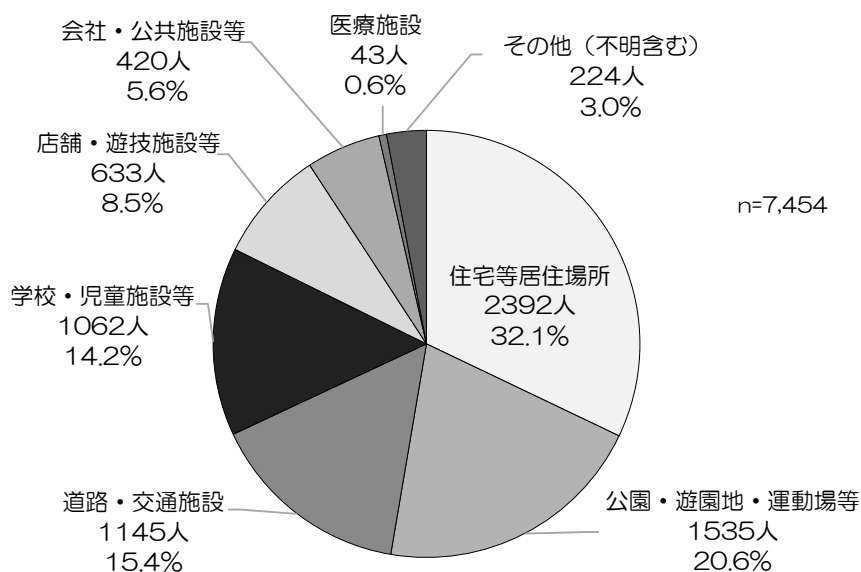


図 2-14 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

全体の8割を超える人が軽症ですが、重症や重篤、死亡と診断される事故も発生しています（図 2-15）。

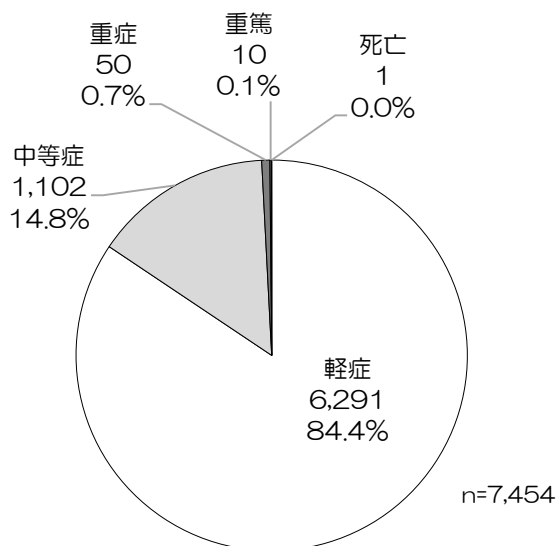


図 2-15 初診時程度別救急搬送人員

【事例 ぶつかる】

駅構内の階段を降りている際に、通行人とぶつかり転倒し受傷した。
(80代 中等症)

4 ものがつまる・ものが入る・誤って飲み込む

(1) 年別搬送人員

食べ物を喉につまらせたり、たばこや玩具などを飲み込んでしまう事故により、平成30年中は3,640人が救急搬送されています（図2-16）。

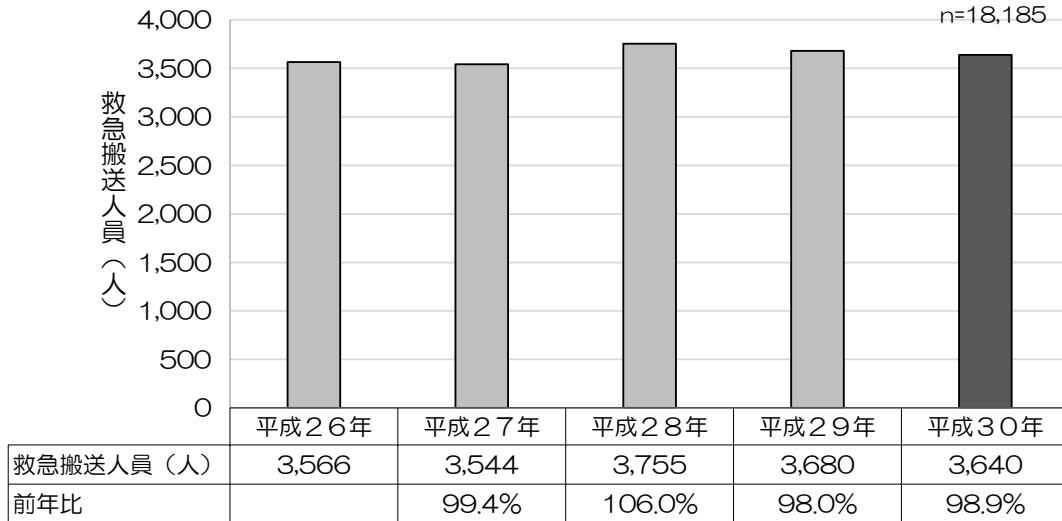


図2-16 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳が最も多く、1,167人が救急搬送されています（図2-17）。

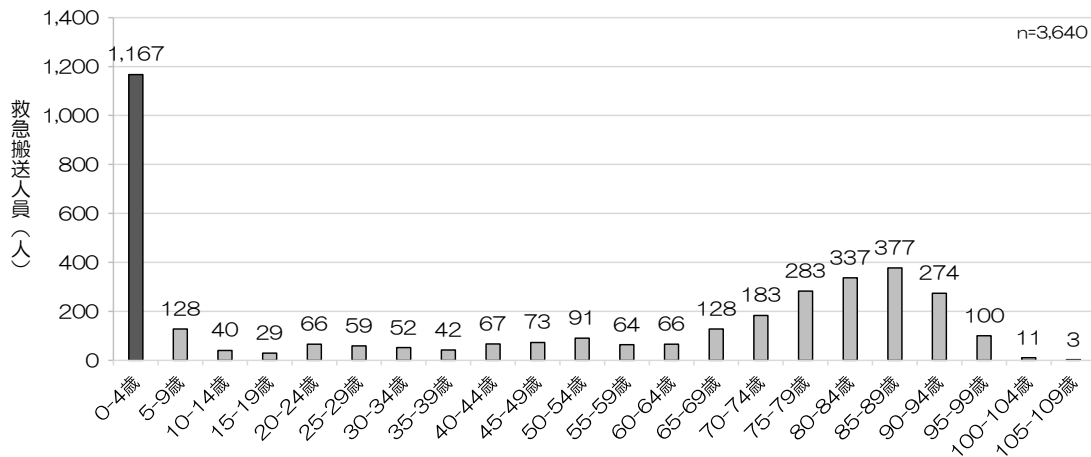


図2-17 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が8割以上と最も多く、次いで、店舗・遊技施設等が多くなっています（図2-18）。

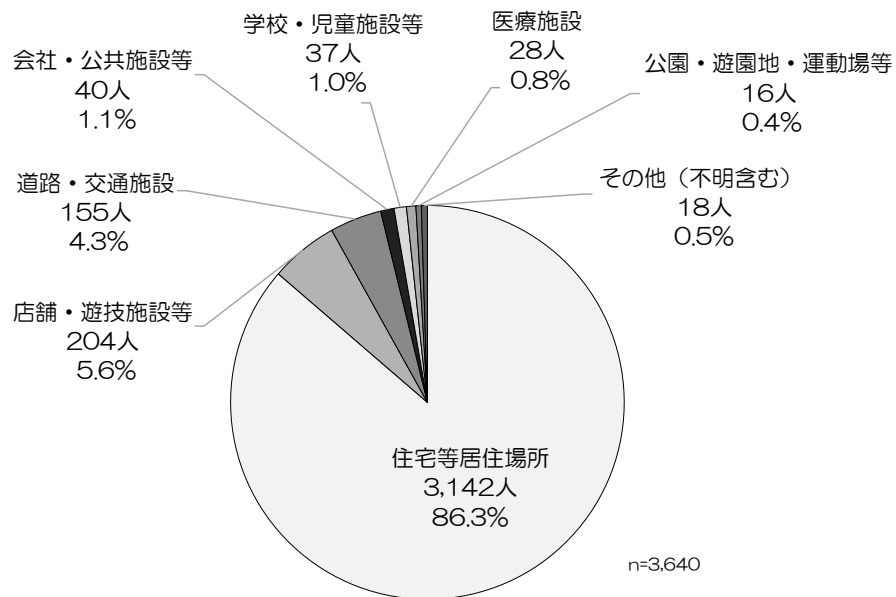


図2-18 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

「ものがつまる等」の事故では、約3割を超える人が中等症以上と診断されています（図2-19）。

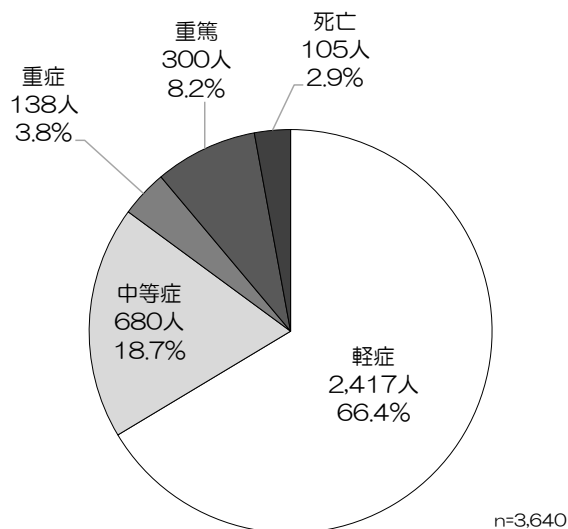


図2-19 初診時程度別救急搬送人員

【事例 ものがつまる】

自宅のベッドで小さく切った餅を食べていたところ喉に詰まり、その後意識がなくなりました。（90代 重篤）

5 切る・刺さる

(1) 年別搬送人員

刃物で切ったり、何かが刺さったりする事故で、平成30年中に3,625人が救急搬送されています（図2-20）。

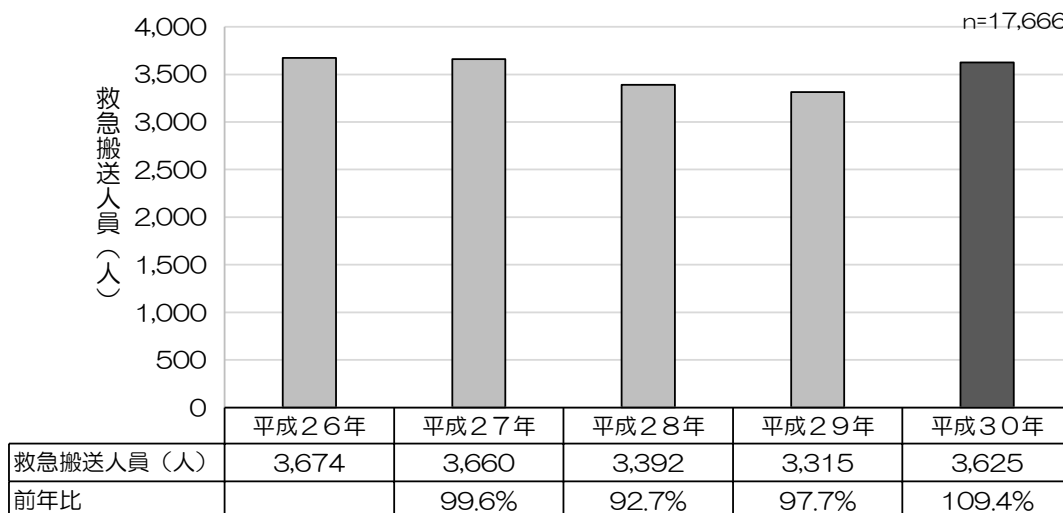


図2-20 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、20歳代での救急搬送人員が300人を超えて多くなっています（図2-21）。

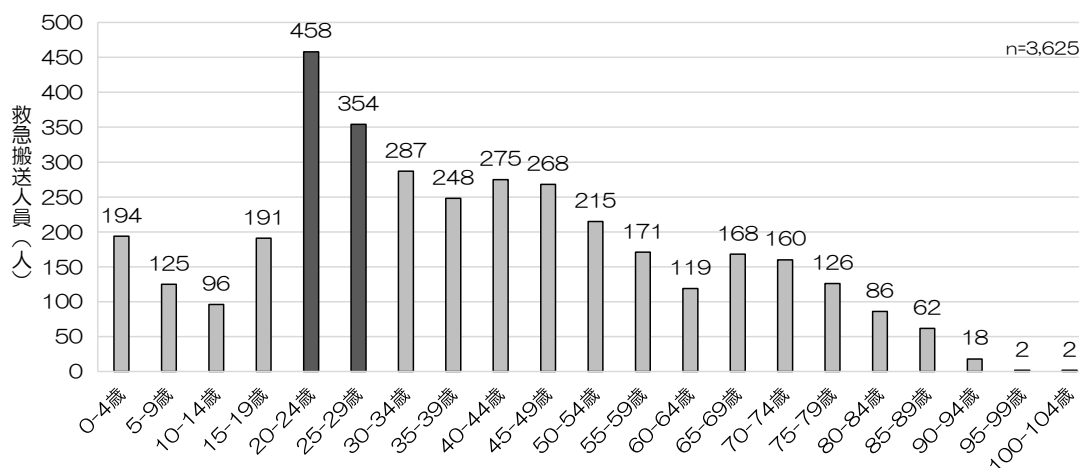


図2-21 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が最も多く約6割を占めており、次いで店舗・遊技施設等、会社・公共施設等が続いて多くなっています（図2-22）。

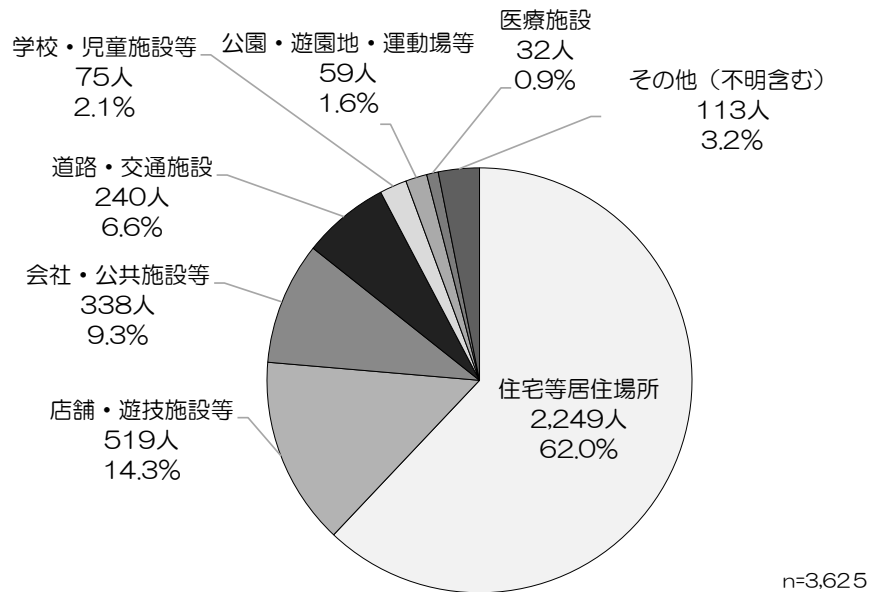


図2-22 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

「切る・刺さる」事故では、全体の1割を超える人が中等症以上と診断されます（図2-23）。

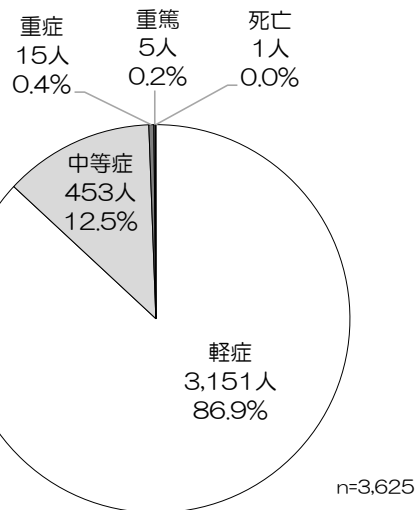


図2-23 初診時程度別救急搬送人員

【事例 切る】

電動のこぎりで作業中、電動のこぎりが跳ね返り、左前腕を受傷した。
（70代 中等症）

6 はさむ・はさまれる

(1) 年別搬送人員

ドアや機械、鉄道車両の戸袋などにはさまれたり巻き込まれたりする事故で、平成30年中に2,118人が救急搬送されています（図2-24）。

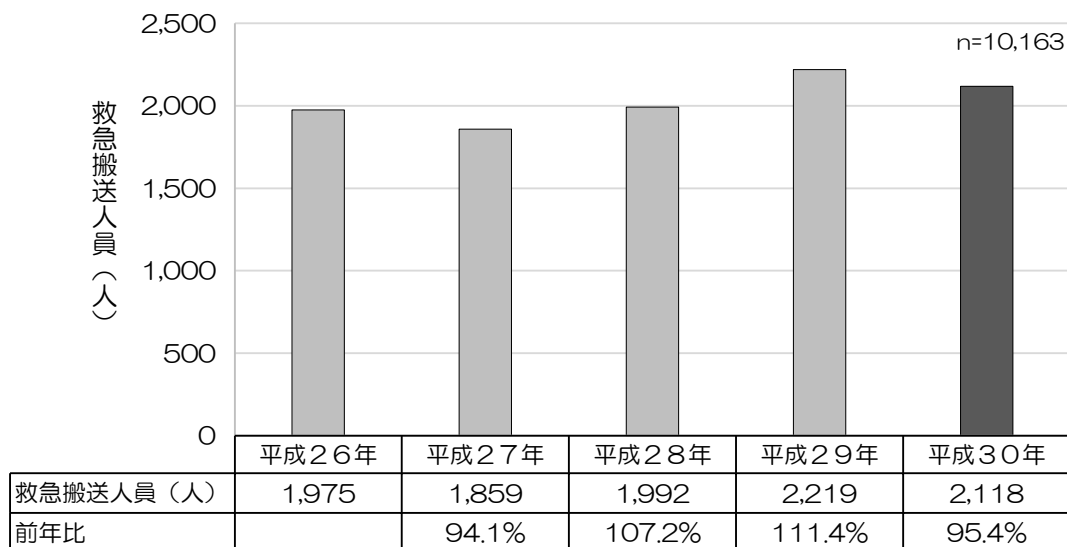


図2-24 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳が最も多く370人が救急搬送されています（図2-25）。

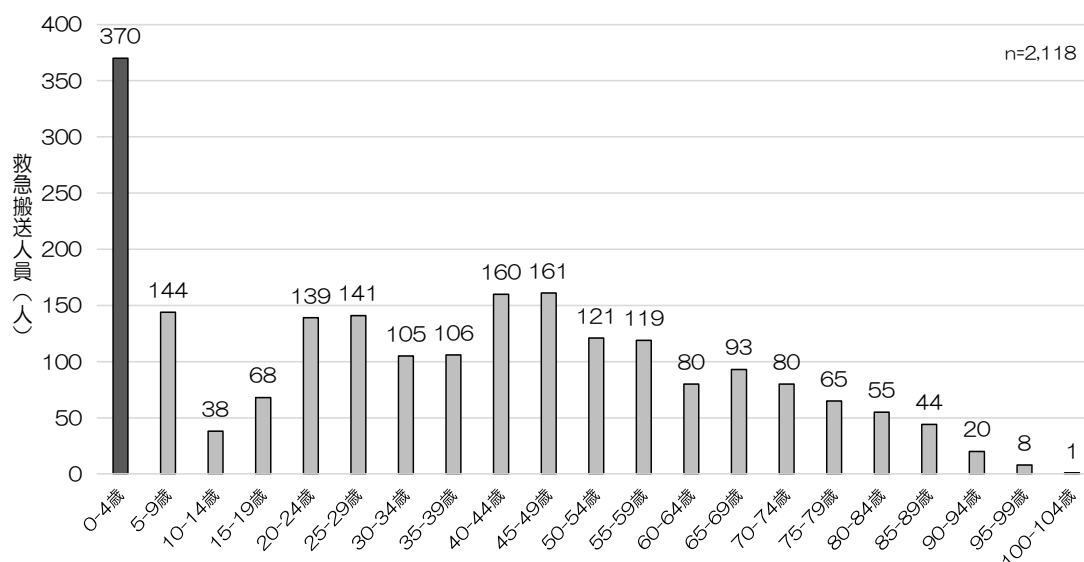


図2-25 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所が約3割と最も多く、次いで道路・交通施設、会社・公共施設等でも多く発生しています（図2-26）。

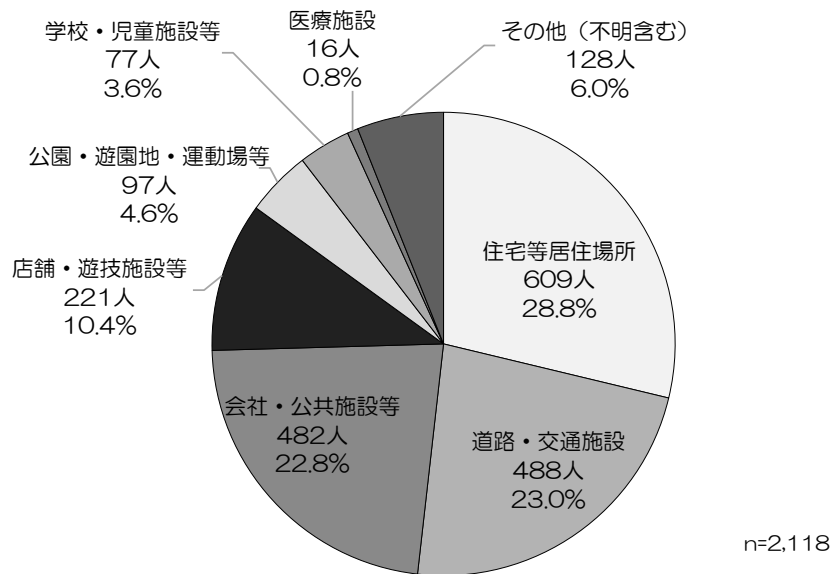


図2-26 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

「はさむ・はさまれる」事故では、約3割が中等症以上と診断されています（図2-27）。

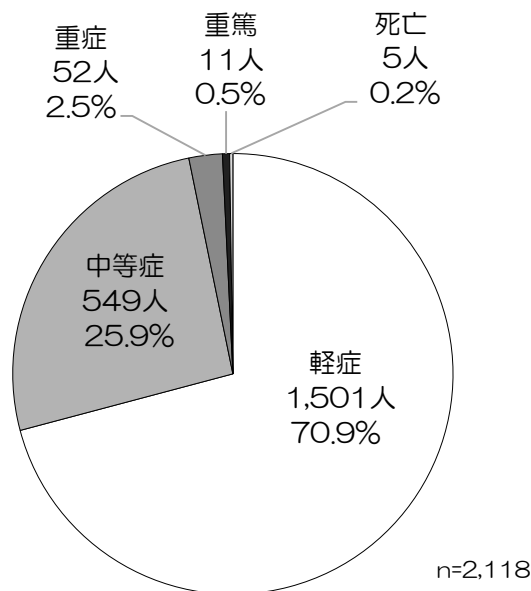


図2-27 初診時程度別救急搬送人員

【事例 はさまれる】

エレベーターに子どもを抱っこしたまま乗っていた際、扉が開いた時に、子どもの手指が戸袋に挟みこまれた。（1歳 軽症）

7 やけど

(1) 年別搬送人員

熱湯や天ぷら油等によるやけどで、平成30年中に1,259人が救急搬送されています（図2-28）。

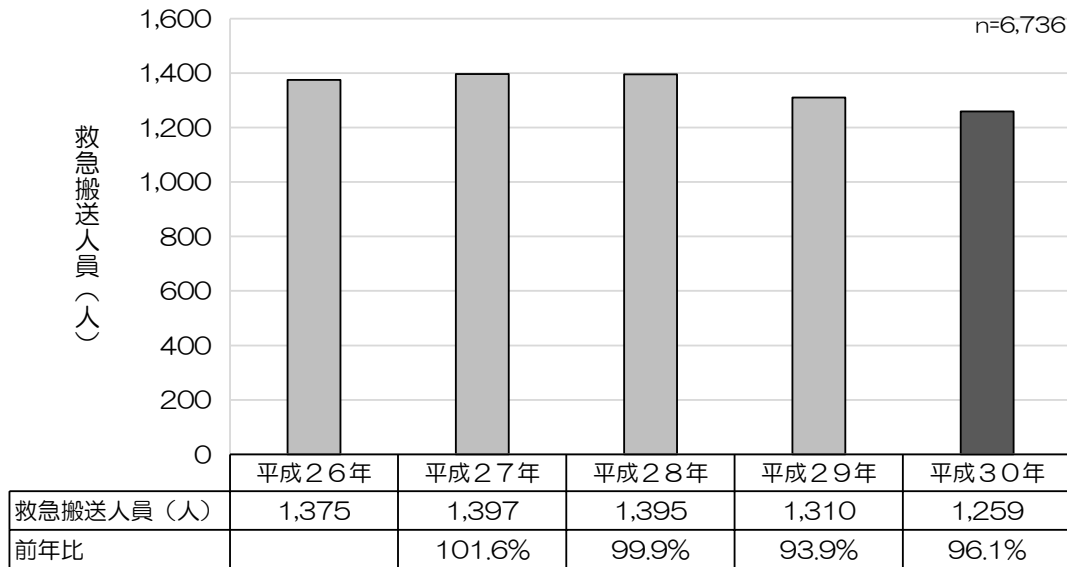


図2-28 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、0歳から4歳が最も多く、405人が救急搬送され、全体の3割以上を占めています（図2-29）。

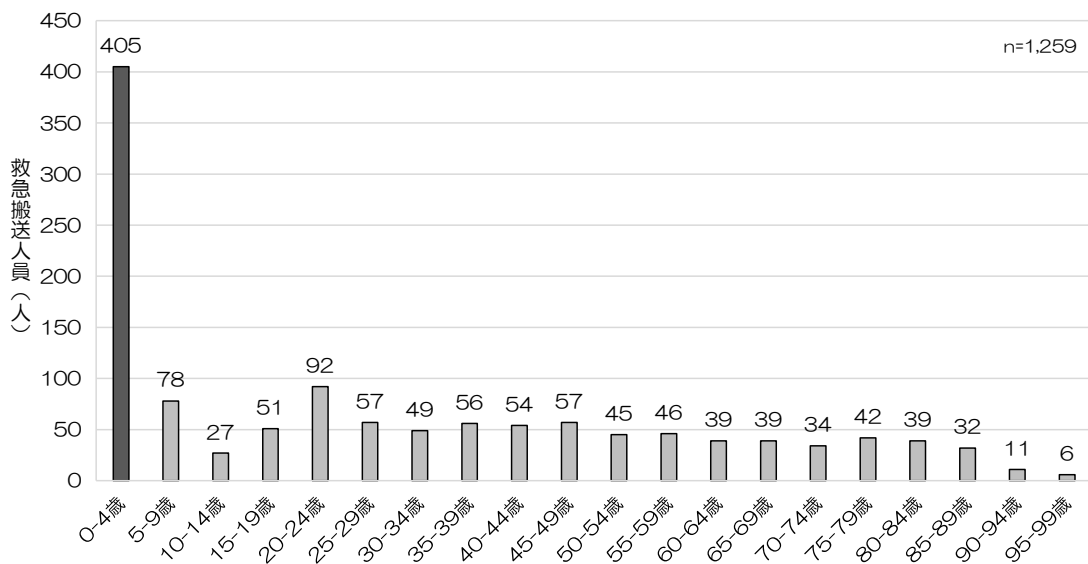


図2-29 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所の割合が最も多く、75.1%となっています（図2-30）

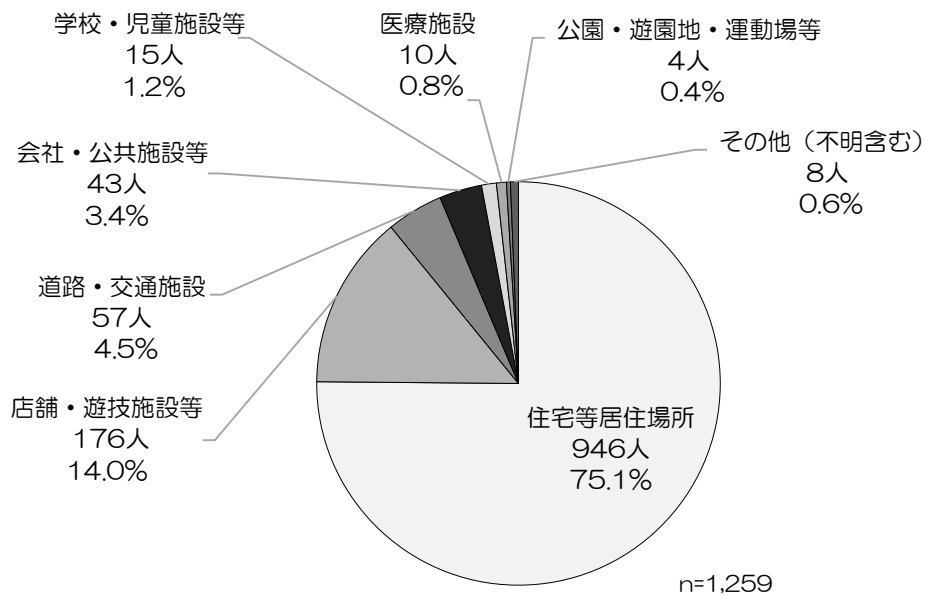


図2-30 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度では、約2割が中等症以上と診断されています（図2-31）。

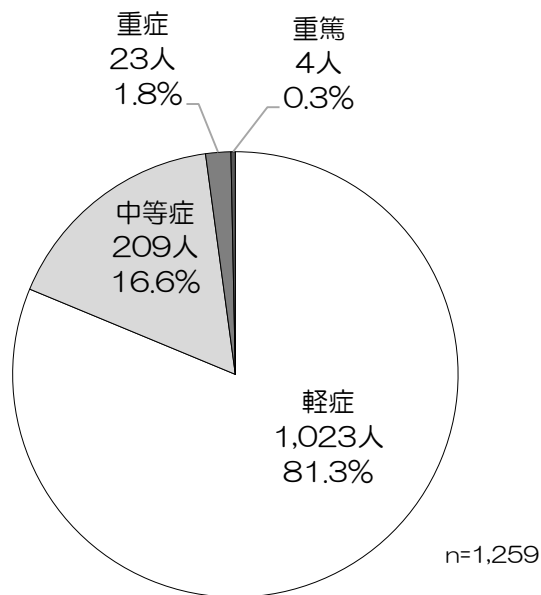


図2-31 初診時程度別救急搬送人員

【事例 やけど】

テーブルの上に置いてあった、熱湯を注いだばかりの急須を倒してしまいやけどを負った。（8カ月 中等症）

8 かまれる・刺される

(1) 年別搬送人員

犬にかまれる、蜂に刺される等で、平成30年中に830人が救急搬送されています（図2-32）。

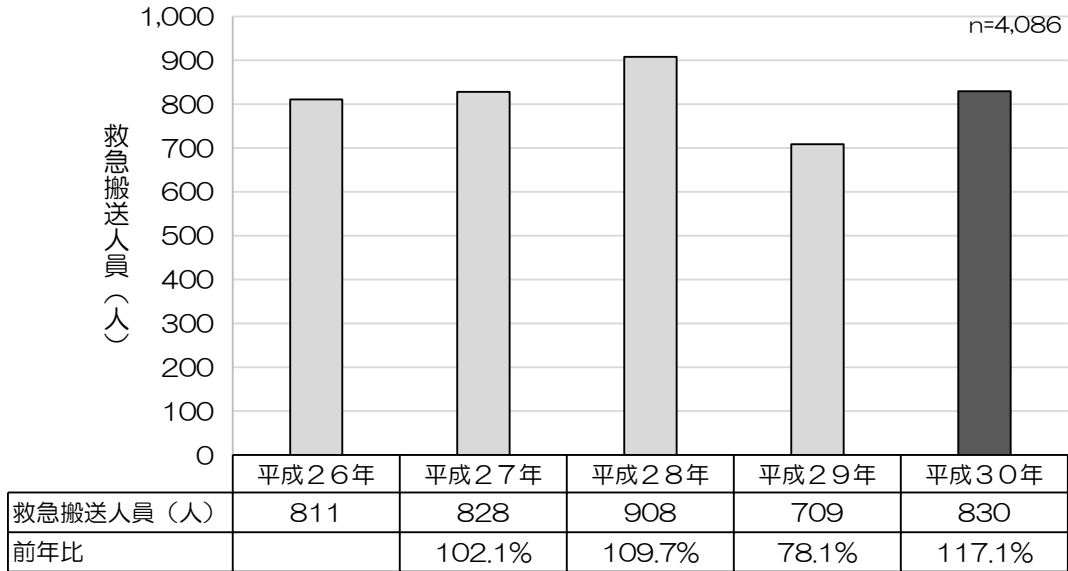


図2-32 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

年齢層（5歳単位）別では、70歳から74歳が多くなっています（図2-33）。

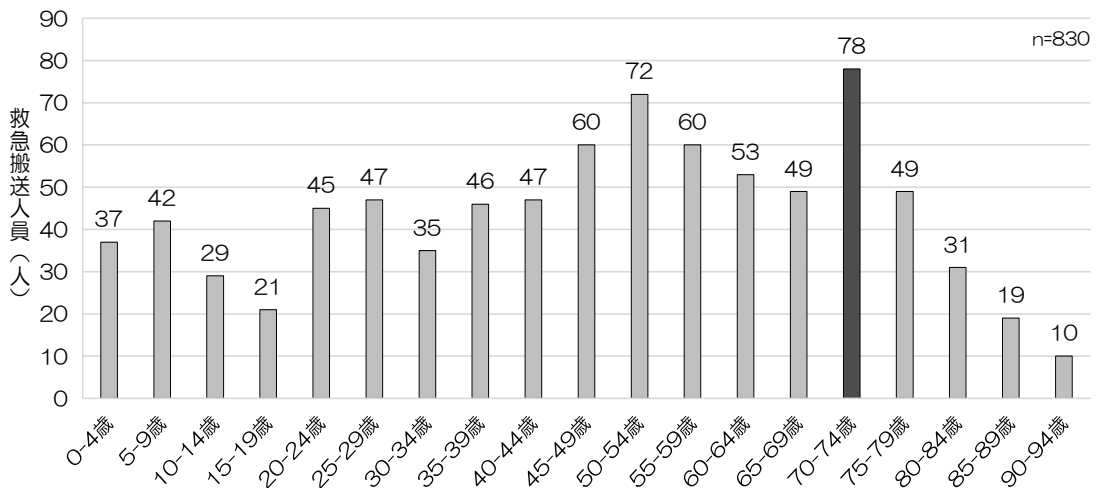


図2-33 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

発生場所別にみると、住宅等居住場所が多く、次いで、道路・交通施設が多くなっています（図2-34）。

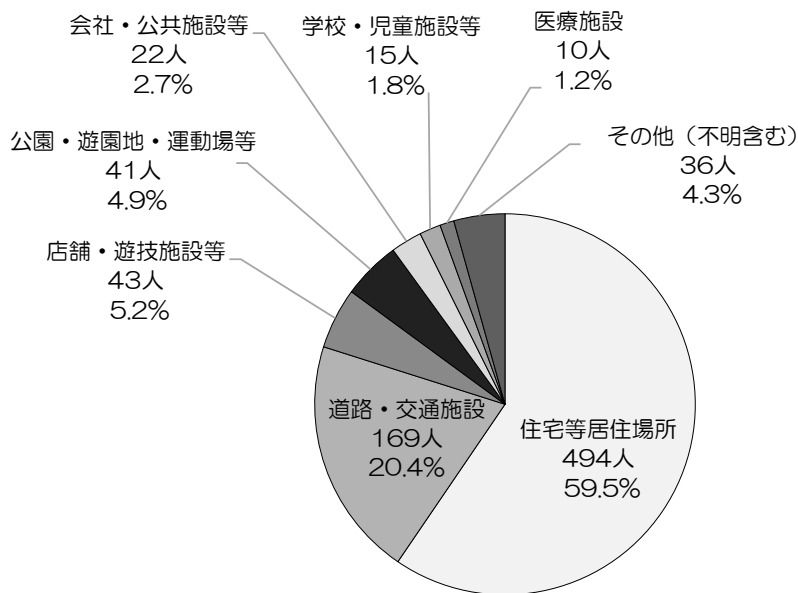


図2-34 発生場所別救急搬送人員 n=830

(4) 初診時程度別搬送人員

軽症が約9割を占めていますが、中等症と診断される事故も発生しています（図2-35）。

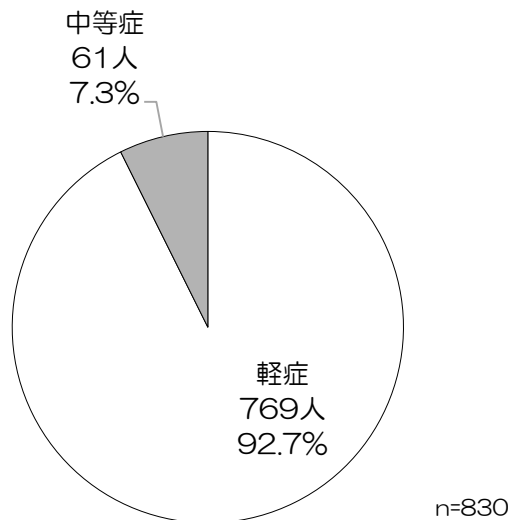


図2-35 初診時程度別救急搬送人員

【事例 刺される】

自宅の庭で花の手入れをしている最中に、蜂に指を刺されてしまった。

（70代 軽症）

9 おぼれる

(1) 年別搬送人員

浴槽や海、河川等での事故で、平成30年中は674人が救急搬送されます（図2-36）。

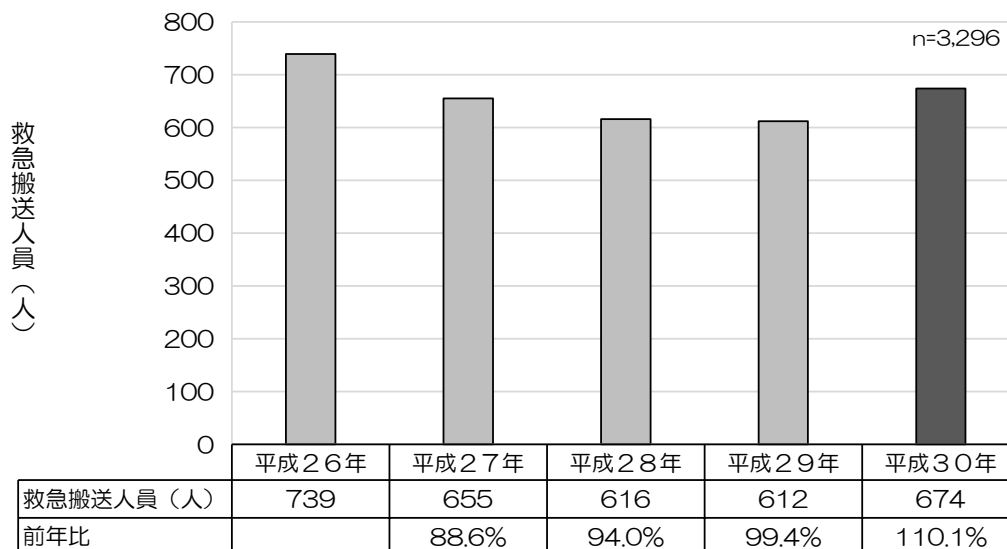


図2-36 年別の救急搬送人員

(2) 年齢層別搬送人員

「おぼれる」事故は、乳幼児、高齢者に多く発生しています（図2-37）。

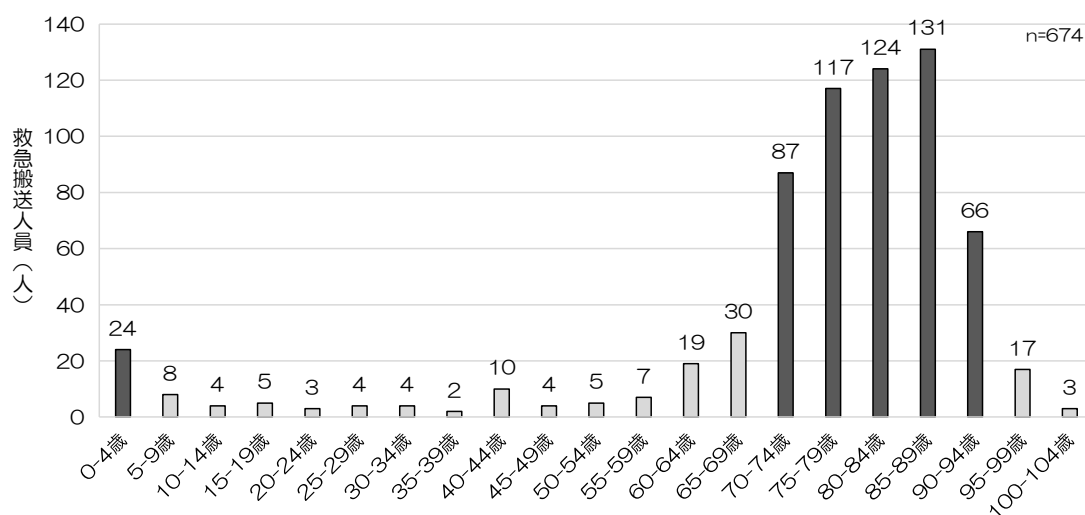


図2-37 年齢層別救急搬送人員

(3) 発生場所別搬送人員

「おぼれる」事故の発生場所は、住宅等居住場所が84.0%で最も多くなっています（図2-38）。

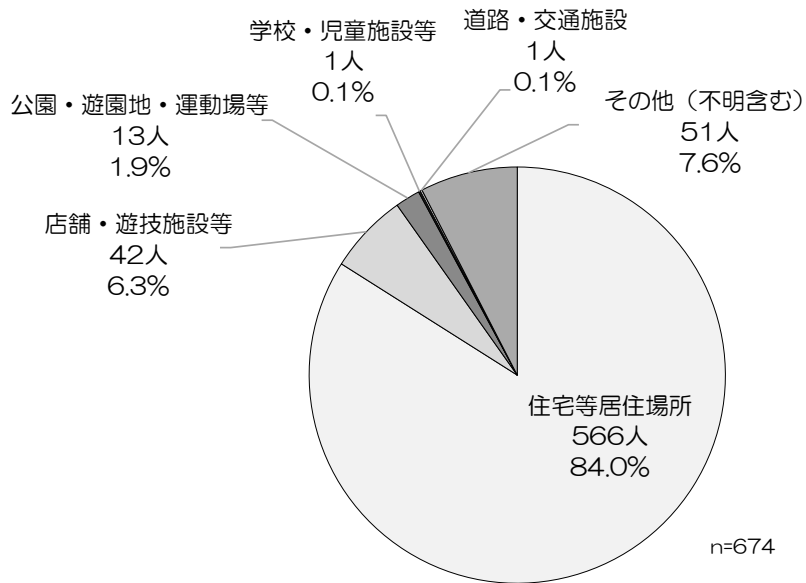


図2-38 発生場所別救急搬送人員

(4) 初診時程度別搬送人員

初診時程度別にみると、9割以上が中等症以上を診断されており、さらに約8割が重篤又は死亡と診断されています（図2-39）。

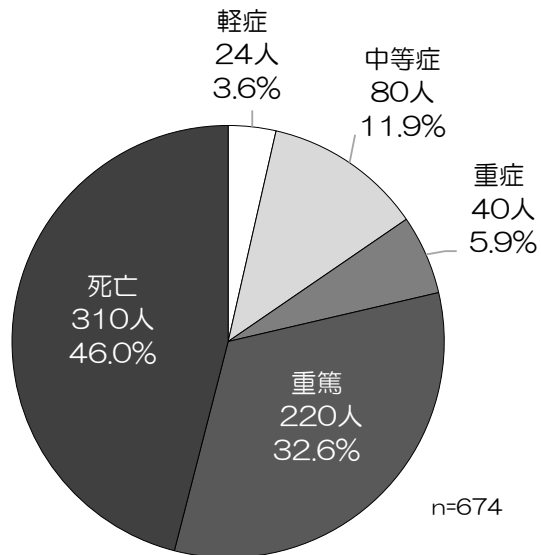


図2-39 初診時程度別救急搬送人員

【事例 おぼれる】

入浴後、浴室から出てこないため心配した家族が確認したところ、浴槽内に沈み、呼びかけに回答のない傷病者を発見した。（50代 重篤）